

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、小学6年生と中学3年生を対象に行われているものです。

内容は「教科(国語、算数・数学、英語)に関する調査」と「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」の2つです。

## 1. 「教科に関する調査」の結果

### a. 国語

全体として県平均および全国平均よりも高い点となっています。特に「思考力・判断力・表現力」の категорияで「A話すこと」においては県平均および全国平均を大きく上回っており、生徒たちのコミュニケーション能力が高いことを示しています。また、「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」でも県平均および全国平均より高い成績となっています。

### b. 数学

全体として県平均および全国平均よりも高い点となっています。特に「B図形」においては、県平均および全国平均を大きく上回っています。また、「A数と式」のような基本的な数学の領域でも県平均および全国平均より高い成績となっています。

### c. 英語

全体として県平均および全国平均よりも高い点となっています。特に「書くこと」の categoriaで顕著な成果が見られます。「聞くこと」や「読むこと」の categoriaでも一定レベル以上の成績を維持しているが、「書くこと」の結果と比較するとやや低くなっている。

## 2. 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の結果

「基本的な生活習慣や学習習慣」は継続して全国平均を上回っています。「学習への関心」は全国平均を下回っています。しかし、各回答を見てみると、自信を持って「している」と答える生徒は少ないのですが、「どちらかといえばしている」と答える生徒は全国平均より多いです。これは「規範意識・自己有用感」の結果にも表れています。明確に自分の意見を伝える場面を増やし、それを目標に向かって建設的に形成していくことが必要だと考えられます。

また、本校の強みはICT機器の活用です。使用頻度に関する回答はどれも全国平均を大幅に上回っており、ICT機器を使った勉強が「役に立つ」と思っている生徒も全国平均を大幅に上回っています。

普段の生活から当事者意識をもてるような環境づくりをし、自己選択・自己決定の機会を増やすことで主体性を養っていくことが重要だと考えられます。

## 3. 今後の取り組みについて

本校の学校教育目標を改めてお知らせいたします。

## 【学校教育目標】

一人一人を生かし 人間性豊かな生徒の育成に努める

## 【具体目標】

- ・未来を創る力をつけよう
- ・互いに認め合おう
- ・たくましく生きよう

## 【目指す生徒像】

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、未来を創る学力を身につけた生徒
- ・生命を大切にし、互いに認め合える生徒
- ・自らを律し、礼儀正しい生徒
- ・健康でたくましい体力をもった生徒

学習指導要領が改訂されて3年目となりました。社会のグローバル化が進む中、今回の改訂では日本における学びがワールドスタンダードに近づいております。つまり、過去に経験した教育から大きく変化しているということになります。

本校では調査の実施後に分析を行い、授業改善を図り、主体的な学習者の育成に向けた取り組みを一層充実していきたいと考えています。そのために全職員で目標を都度確認し、達成のために組織的に取り組んでいます。

目標達成のためには、地域の方々やご家庭の理解と協力が必要不可欠です。生徒、教職員、保護者、地域の方々が、学校教育目標達成という同じ視点で考えて動いた時に、大きな成果をあげることができるはずです。これからも本校の教育活動に対してご理解とご協力をよろしくお願いいたします。